

前立腺がんと診断、どこで手術を受けようかな？いい術者とは？

文 佐々木 裕

text by Hiroshi Sasaki

みなさん、こんにちは。今日は前立腺がん手術のお話です。前立腺がんと診断された時、手術を根治治療として選択される患者さんがいらつしやいます。よくこんな質問を受けます。

「どこで手術を受けたいのでしょうか？」

病院で決める、医師で決める、手術件数で決める、医師の年齢で決めるなどいろいろあるかと思えます。インターネット上でもさまざまな情報があふれ、どの情報が正しいのか吟味するのはなかなか至難の業ですね。

手術件数が多いからいいのか？一概にはそうとは言えない場合もあります。例えば5人の先生がメインで300例の手術を行っている大病院と、1人の先生が100例行っている病院では、術者1人あたりの手術件数は異なります。何人の先生で手術をしているかまでは載っていないことが多いので病院の手術件数は一つの目安として考えるといいと思います。最近では、ロボット支援手術の普及により、若い先生でも上手な先生はたくさんいらつしやいますので年齢も目安になると思います。ではどうしたらいいのか？外科医の

私が考えるいい術者とは、手術方法、合併症などを丁寧に説明してくれる先生です。どんなにうまい医師が手術を行っても合併症は起こることがあります。多くの合併症は後遺症なく改善することが多いですが、何かあると患者さんは不安になります。そんなときに説明が十分でない先生では、より不安になることがあります。前立腺がんの術後では、尿漏れや男性機能障害などの合併症があります。こうしたことがどのくらいの頻度で起こるのか、改善するのかなど具体的に説明してくれる先生をお勧めします。丁寧な説明をしてくれる先生は、何かあったときも安心できることが多いと思います。説明に関しては、必ずしもメインの医師だけでなくチームの医師でももちろん問題ないと思います。

「逆にお勧めしない先生はいるのですか？」

手術件数や手術時間のアピールが特に強い先生はあまりお勧めしません。がんの手術は、早く終わればいいというものではないんです。いかに根治性を高くかつ、合併症を抑えるかが重要

です。よって、しっかりとした手術を行うかどうか重要です。どんな手術なのかよく納得した上で手術を受けることをお勧めします。結果として上手な先生は、早く手術が終わることが多いのですが。

Profile

佐々木クリニック泌尿器科 芝大門 院長
慈恵医大 泌尿器科 非常勤講師
1973年生まれ。1999年、慈恵医大卒。虎の門病院、東海大学、トロント大学を経て慈恵医大で長く前立腺がんの研究・診断・治療を行ってきた。特に腹腔鏡・ロボット支援手術は2000例以上の執刀・指導経験を持つ。また、前立腺MRI/US融合標的生検の先進医療では、保険適用に尽力した。多くのがん患者さんが不安を持つなかで、少しでも安心に変えられるような施設の必要性を感じ、2022年11月、東京都港区に泌尿器科専門の佐々木クリニック泌尿器科芝大門を開院した。メンズヘルス医学会テストステロン治療認定医として男性更年期外来も行っている。



泌尿器科の患者さんが不安のない日々を過ごせるように